

参考情報乙第四十號

滿洲通報 第六號

五月十七日
資料課

目次

一 邦人の状況

二 軍隊の状況

三 邦人の状況

一 邦人の状況
現在葫蘆島に集結してゐる邦人の総数四萬（大部は老幼婦女子）であるが奉天以南中國軍の勢力下に入つた地域には約四十萬人がゐる様であり毎日約五千入位宛が逐次葫蘆島に集結中である

右に歸し米軍當局は六月二十三日迄に之等四十萬人を葫蘆島に集結せしめる豫定を稱してゐるとの事であるが別の情報によれば五月初より奉天附近でまだ匪共が交戦してゐる模様であるから相當其の實施の困難であらう

二 葫蘆島集結地に於ける生活状況

0550

(イ) 中區側の統制下に日僑府監理所と稱する機關を設け共同生活を営んでゐる

(ロ) 婦女子ハ行商(バコ、雜貨、餘等)男子は勞働(港灣荷役等)によつて生活資金を得てゐるかそれ等は全部共同で使用する
(ハ) 主食として粟、高粱一日約三〇〇瓦の配給あり副食は賤價で購入する

(ニ) 全体の約一割が主として榮養失調、肺炎で死亡したがそのうち約八割は乳幼児であるその他は案外に元氣で傳染病は少い

又引揚者の悪態状況は一般に良好(比較的戰火の被害少かつた爲でもあらう)の模様で特に共產主義には強烈な反對意見を持つてゐるやうである(ソ連及中共軍を通じてみた反動?)

又新中(錦州附近)一〇〇料)では一般邦人男子も死ど北滿ソ領方面へ移送された様である

(ホ) 九月十二日二十才―四十五才の男子を列車で何處かへ送つた

(ヘ) 九月十四日二十才―四十五才の男子(十二日に送られなかつた病

0551

戦者一及び四十六才、四十九才の男子を阜新、平身、奉天方面に送り奉天で防務隊を支援し更に北に送つた
（九月二十四日、二十五才、十九才の男子を奉天へ移送したが一月十日に釋放した）

（その人達の話によると一日の食糧は粟の掘飯一つの量さへあつた。）

二、軍隊の状況

1. 滿洲部隊は戦勢の詳報の如くソ連方面に送られてゐる模様である
（註）綏中赤人北送の輸送及び滿洲里脱出者が同地通過を許せる列車に日本軍隊を攻撃したとの言等より綜合判断す

2. 錦州、綏中地區の軍隊一連六九三、九四四、五五五、八六九、五二、一八〇四の二四五一六六七五、一五三五三等に一部飛行隊を以て林西方面より進入した。前線部隊に對し攻撃を加へ主力は八月十三日前後に夫々鐵道線は軍用機で動員方面に轉進して來た時（八月二十九日頃）に如職長は行なはなかつた様である

3. 併し之等部隊の轉進が即意に行はれた爲主力に遅れた者が或は現即
除隊した者か或は故意に部隊より離れた者か何れにせよ相當の者が
現地に残つて或は區隊軍に投じ或は中共軍に投じた様である又雲仙
丸引揚者中に錦西の九四五部隊の軍人終三〇〇名が混入してゐる様
である滿洲の特殊事情からして此の様を專はあり得る事であるが此
の邊の事情を曲解して軍の無責任、無統制をぞと一部に噂されてゐ
るのである

0553